

第10期荒川区高齢者プラン策定のための
アンケート調査
報告書（ダイジェスト版）

令和8年3月
荒川区

目 次

第1部 調査概要.....	3
第1章 調査概要.....	3
1 調査目的.....	3
2 調査の実施概要.....	3
3 回収結果.....	4
4 報告書の見方.....	4
5 調査項目.....	4
第2部 調査結果.....	5
第1章 介護予防・日常生活圏域二－ズ調査.....	5
第2章 在宅介護実態調査.....	16
第3章 事業者向け調査.....	23

第1部 調査概要

第1章 調査概要

1 調査目的

第10期荒川区高齢者プランの策定に向け、その基礎資料となる各種実態調査及び分析を実施し、調査対象者の意向、要望、現状を把握することを目的とする。

2 調査の実施概要

(1) 調査種類と対象者

調査名	調査対象者	調査対象者数
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の区民（要介護認定者を除く）	3,000人
②在宅介護実態調査	要支援、要介護認定者で、在宅で生活している区民	2,000人
③事業者向け調査	区内の居宅介護支援事業所 区内の在宅サービス事業所 区内の施設・居住系サービス事業所（※）	262件

※ 事業者向け調査における事業所の「サービス種別」は、以下のとおりであり、7分類に区分する。

分類	サービス種別
居宅介護	居宅介護支援
訪問系	訪問介護、訪問看護、訪問入浴介護、訪問リハビリテーション、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護
居住系	認知症対応型共同生活介護、特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム）
通所系	通所介護、地域密着型通所介護、小規模多機能型居宅介護、通所リハビリテーション、認知症対応型通所介護
入所系	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）、介護老人保健施設、介護医療院、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護（特別養護老人ホーム）
短期滞在系	短期入所生活介護、短期入所療養介護
福祉用具	福祉用具貸与・特定福祉用具販売

(2) 調査の期間

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 | 令和7年11月5日（水）～12月17日（水） |
| ②在宅介護実態調査 | 令和7年10月21日（火）～12月1日（月） |
| ③事業者向け調査 | 令和7年10月10日（金）～11月14日（金） |

(3) 調査の方法

郵送配布・郵送またはインターネット回収

3 回収結果

調査名	配布数	回収数	回収率
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000 件	2,011 件	67.0%
②在宅介護実態調査	2,000 件	1,200 件	60.0%
③事業者向け調査	262 件	186 件	71.0%
合計	5,262 件	3,397 件	64.6%

4 報告書の見方

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、比率が0.05未満の場合には0.0と表記している。また、合計値が100.0%にならない場合がある。
- 複数回答の設問の場合、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える場合がある。
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表している。
- 調査票には集計管理のため、管理番号を印字しているが、一部で除去された回答があったため、属性別集計等では設問ごとの有効回答数が回答者数（N）より少なくなる場合がある。
- 設問の回答者数が少ない場合は、分析結果コメントへのパーセント表記はせず、「～などの意見があった」の表記にとどめている。
- 図表中の選択肢は、見やすさを確保するため、語句を短縮・簡略化している部分がある。
- クロス集計については、集計の都合上、無回答者を除いた集計となっている部分があり、単純集計の結果と一致しない場合がある。
- 図表中の平均値は、データの合計をデータの個数で割った値である。また、中央値は、データを大きさの順に並べた際に中央に位置する値である。

5 調査項目

調査名	調査項目	設問数
①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 【72問】	家族構成と生活状況	4問
	からだを動かすこと	12問
	食べること	8問
	毎日の生活	24問
	地域での活動	3問
	たすけあい	8問
	健康	8問
	認知症にかかる相談窓口の把握	5問
②在宅介護実態調査 【41問】	介護の状況	20問
	あて名ご本人	21問
③事業者向け調査 【19問】	事業の状況	8問
	人材確保対策	8問
	地域との連携・社会貢献	1問
	居宅介護支援事業所に関すること	1問
	その他	1問

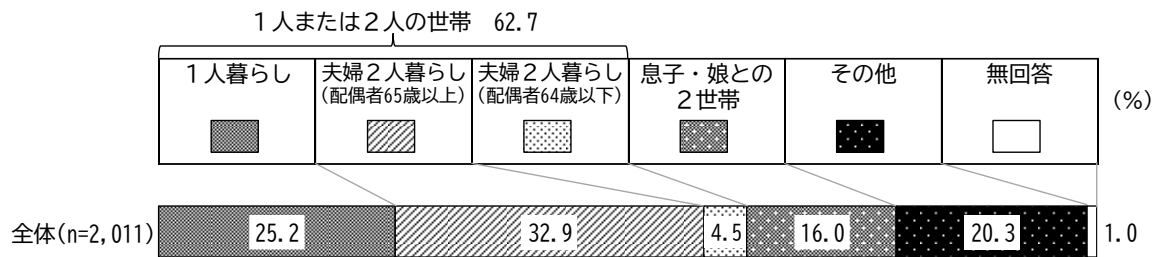
第2部 調査結果

第1章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(1) 家族構成

問 家族構成をお教えてください。(☑は1つ)

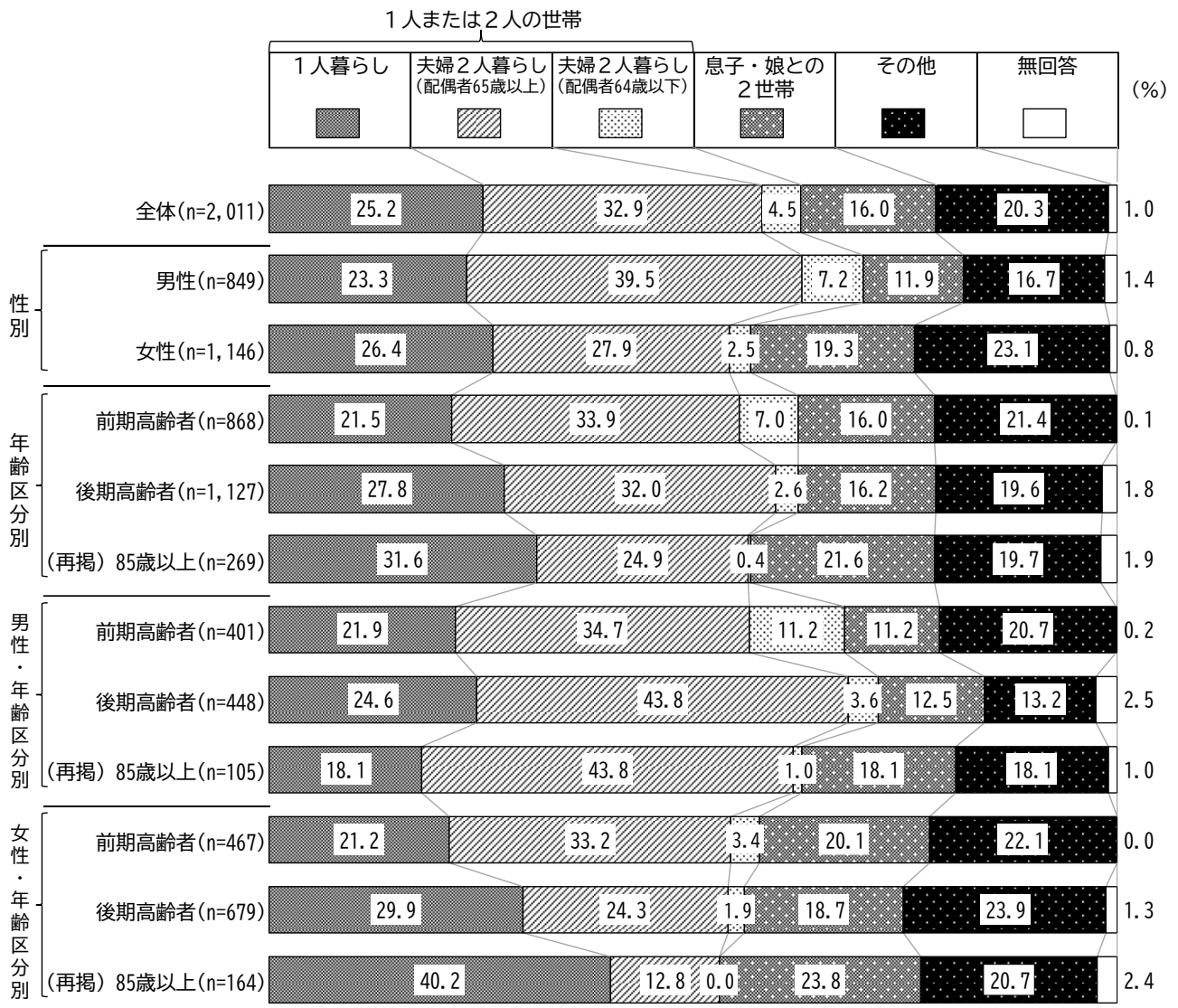
○家族構成については、「1人暮らし」が25.2%、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が32.9%、「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が4.5%となっており、これらを合わせた『1人または2人の世帯』は、62.7%となっている。



○性別で見ると、「1人暮らし」は、女性で26.4%と、男性（23.3%）より3.1ポイント高くなっている。

○年齢区分別で見ると、「1人暮らし」は、85歳以上で31.6%となっている。

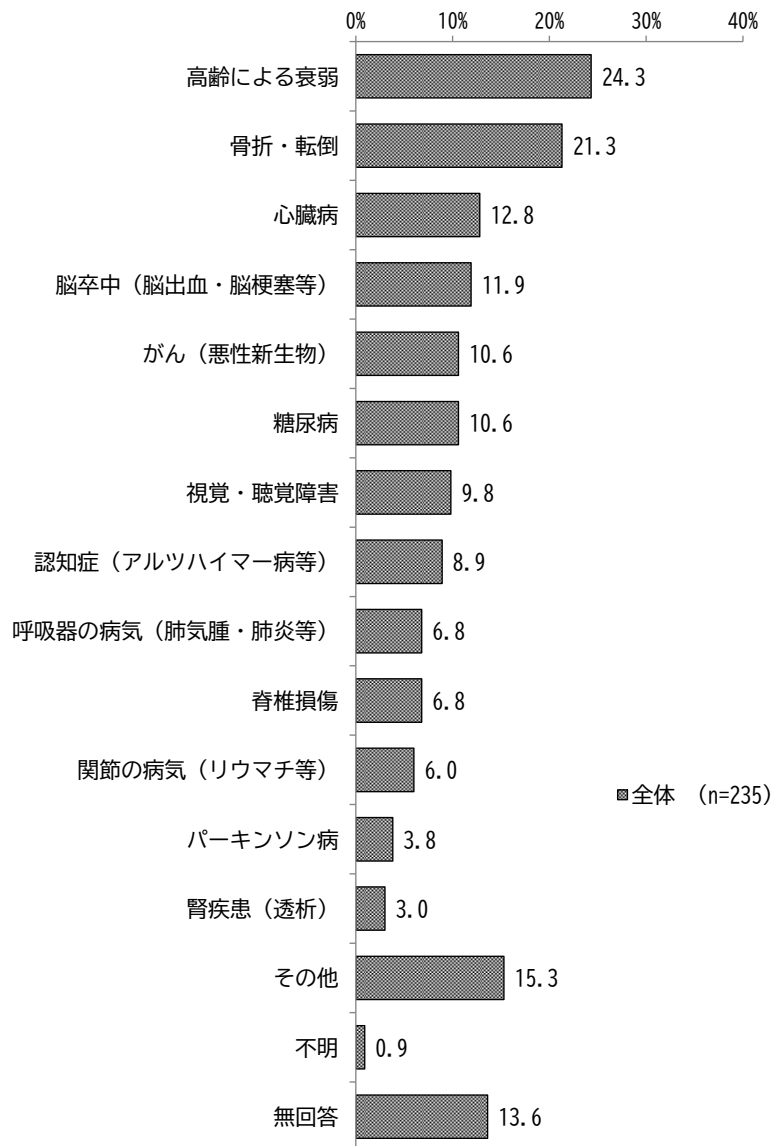
○性別・年齢区分別で見ると、「1人暮らし」は、女性85歳以上で40.2%となっている。



(2) 介護・介助が必要になった原因

問 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。(あてはまるものすべてに☑)

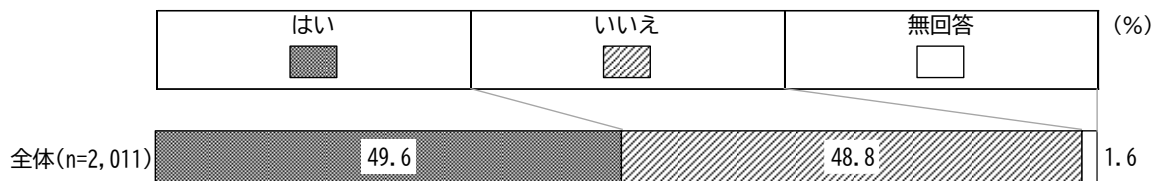
○介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が24.3%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が21.3%、「心臓病」が12.8%となっている。



(3) シルバーパスの有無

問 シルバーパスを持っていますか。(☑は1つ)

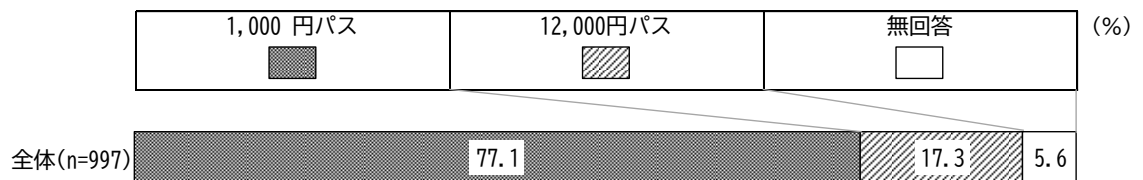
○シルバーパスを持っているかについては、「はい」が49.6%、「いいえ」が48.8%となっている。



(4) シルバーパスの種別

問 お持ちのシルバーパスの種別はどちらですか。(☑は1つ)

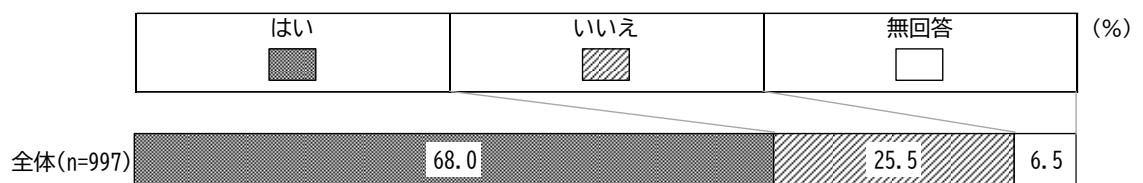
○シルバーパスの種別については、「1,000円パス」が77.1%、「12,000円パス」が17.3%となっている。



(5) 外出機会の増加

問 シルバーパスによって外出機会は増えましたか。(☑は1つ)

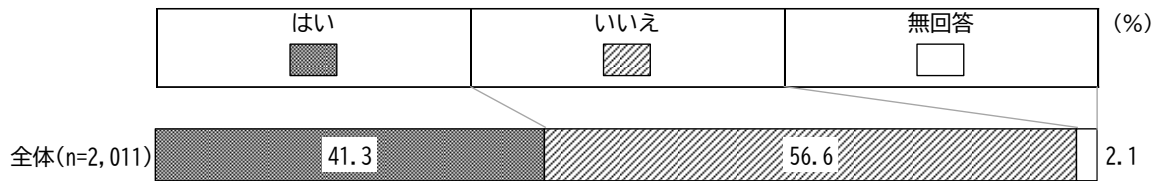
○シルバーパスによる外出機会の増加については、「はい」が68.0%、「いいえ」が25.5%となっている。



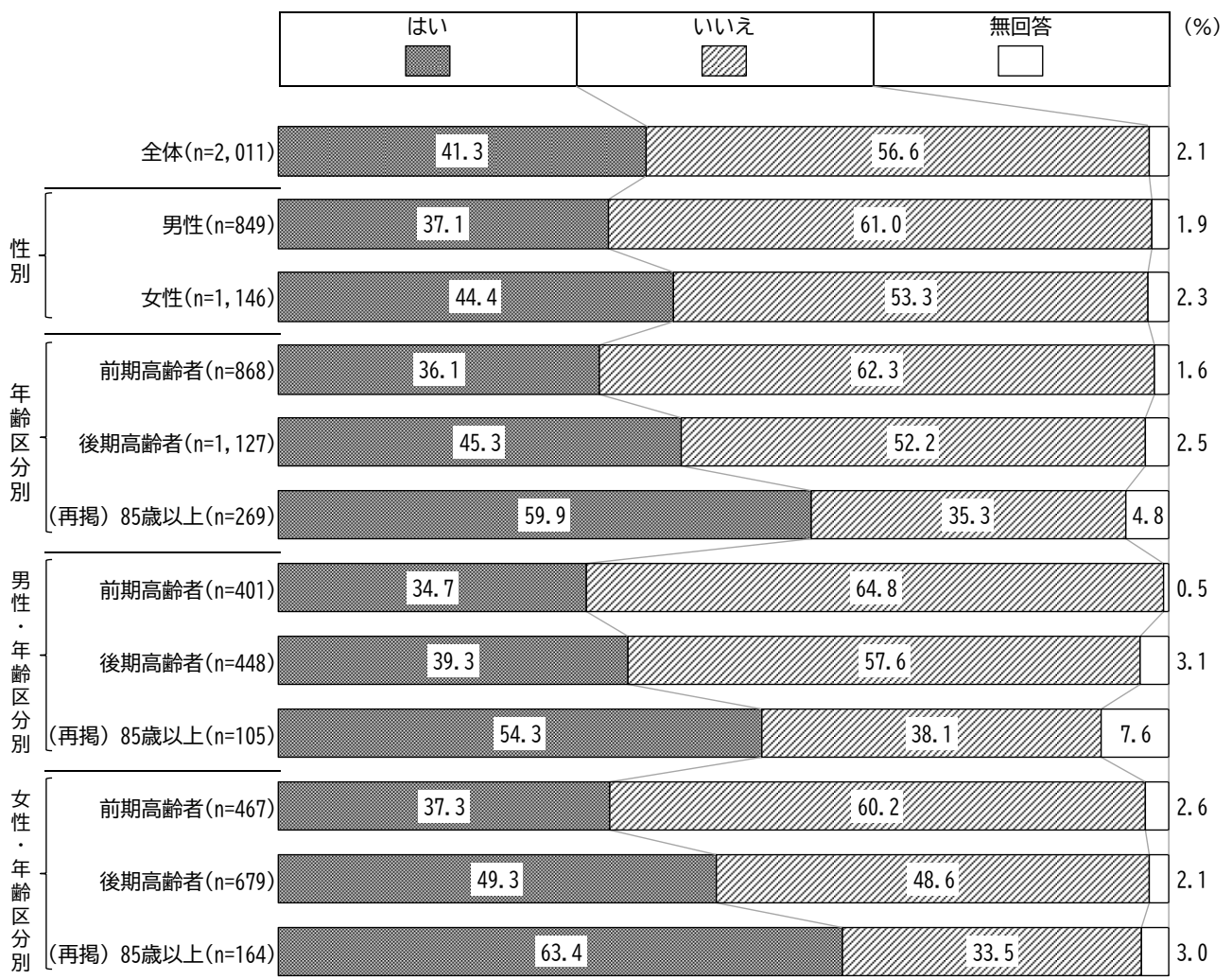
(6) 認知機能

問 物忘れが多いと感じますか。(☑は1つ)

○物忘れが多いと感じるかについては、「はい」が41.3%となっており、「いいえ」は56.6%となっている。



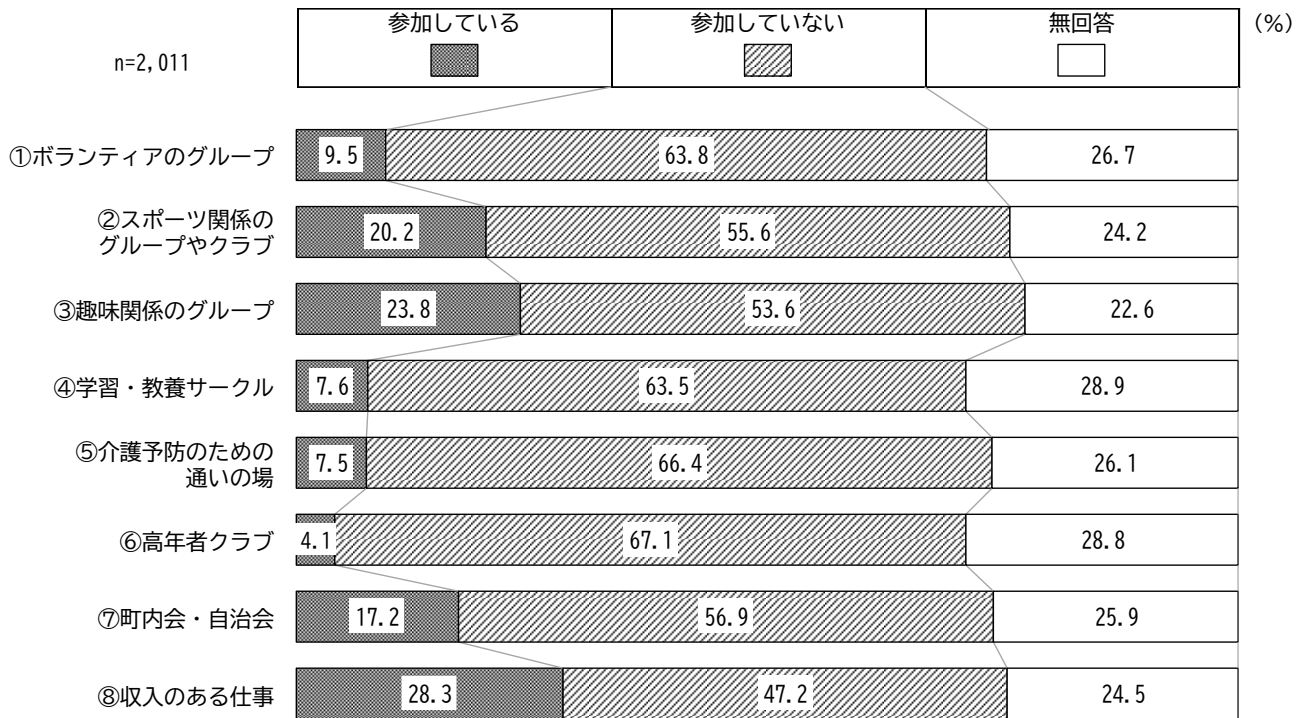
○性別でみると、「はい」は、女性で44.4%と、男性(37.1%)より7.3ポイント高くなっている。
○年齢区分別でみると、「はい」は、後期高齢者(45.3%)が前期高齢者(36.1%)より9.2ポイント高くなっている。



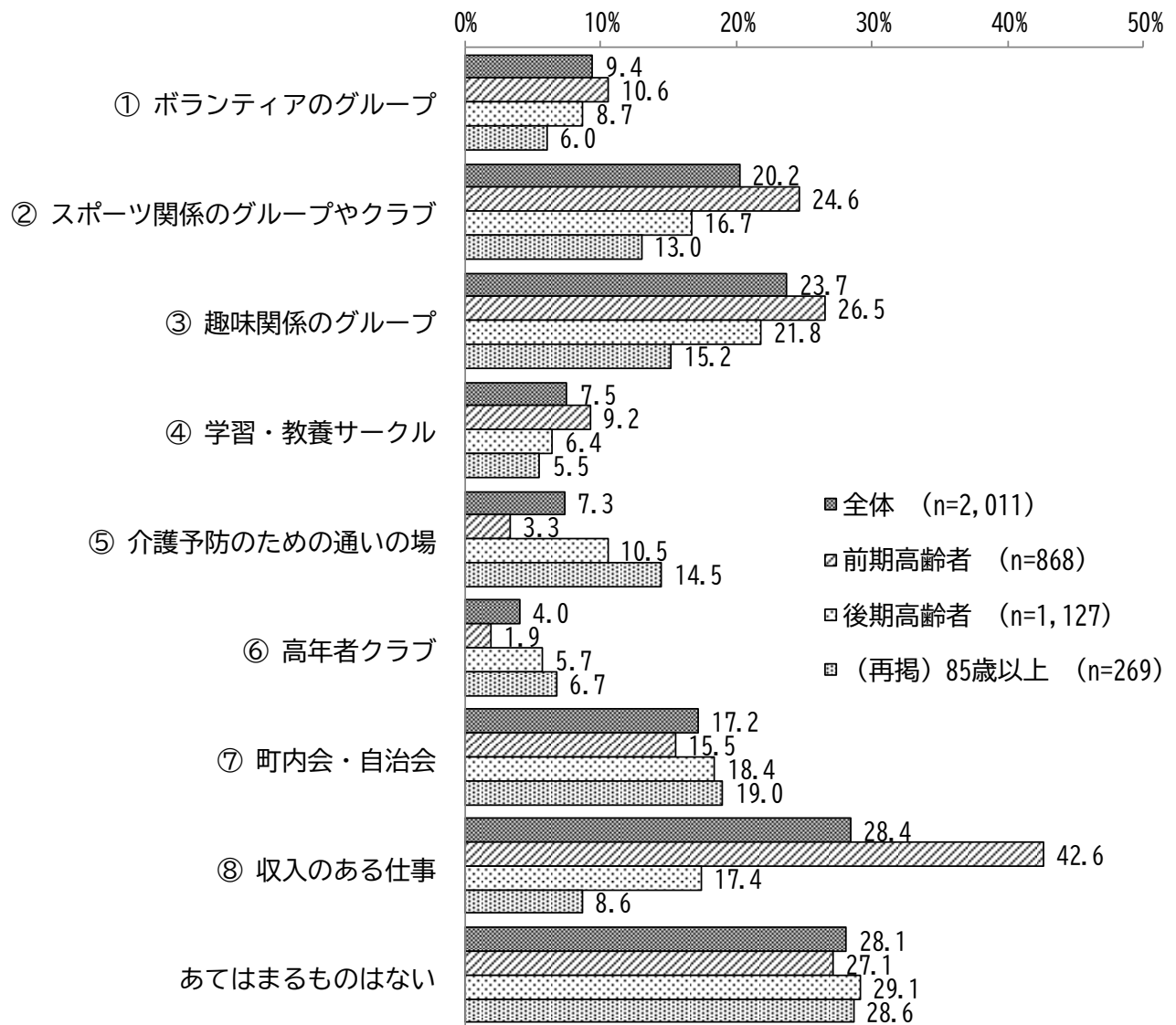
(7) 地域の会やグループへの参加状況

問 会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。(それぞれ☑は1つ)

○地域の会やグループへの参加状況について、週4回以上から年に数回まで、何らかに『参加している』割合に着目すると、「③趣味関係のグループ」で23.8%と最も高く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」(20.2%)となっている。一方、「⑧収入のある仕事」は28.3%となっている。



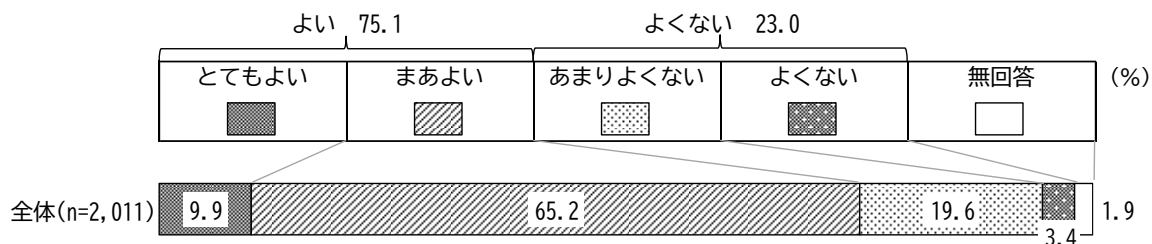
○地域の会やグループの種類別に、週4回以上から年に数回まで、何らかに『参加している』割合を年齢区分別にみた結果は、以下のとおりである。



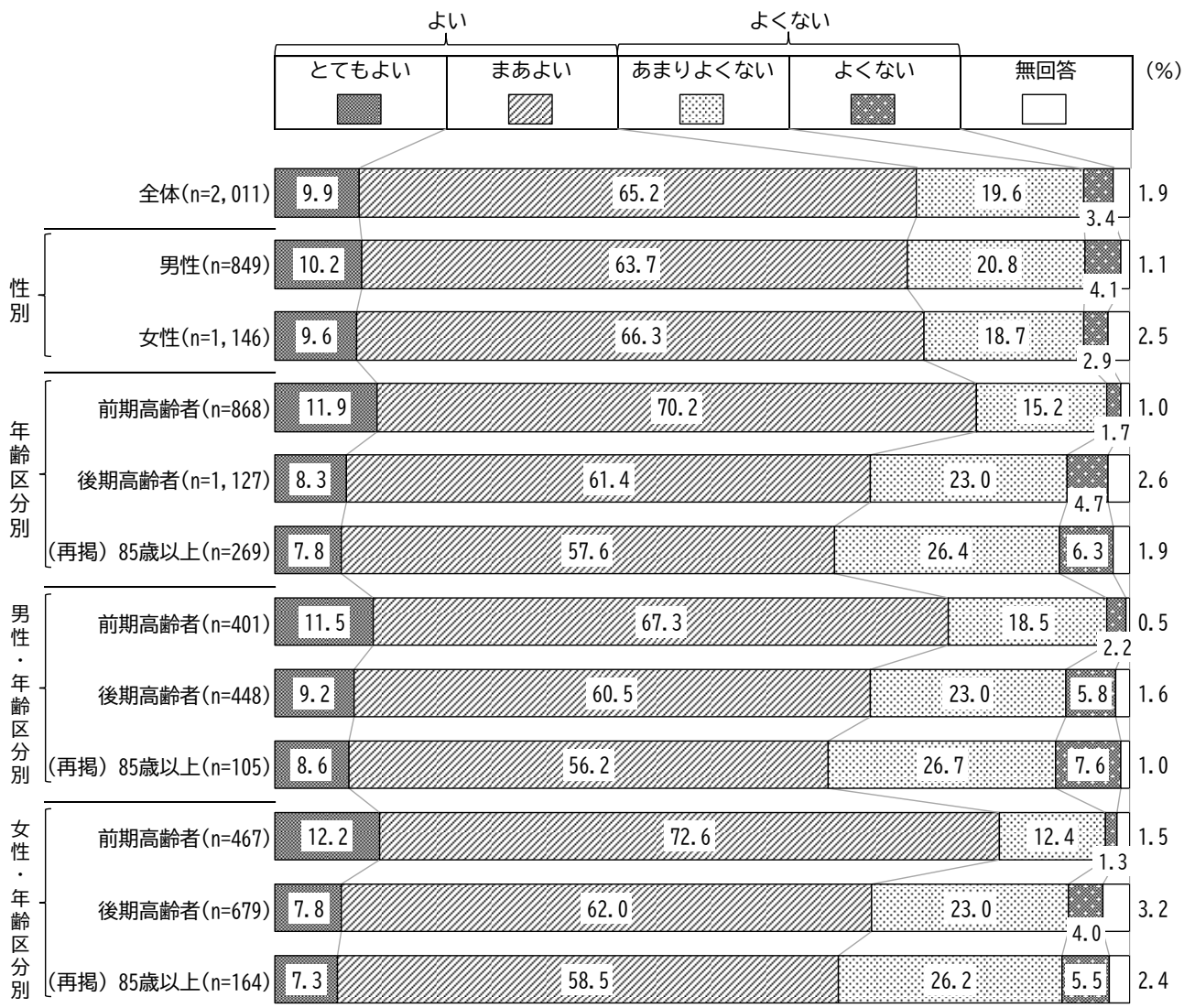
(8) 現在の健康状態

問 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(☑は1つ)

○現在の健康状態については、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた『よい』は、75.1%となっている。



○年齢区分別でみると、『よい』は、85歳以上で65.4%となっている。



(9) 運動器の機能低下

問 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(できない)
 問 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(できない)
 問 15分位続けて歩いていますか。(できない)
 問 過去1年間に転んだ経験がありますか。(何度もある、1度ある)
 問 転倒に対する不安は大きいですか。(とても不安である、やや不安である)
 上記5項目中、3項目以上該当した場合に「運動器の機能低下」に該当

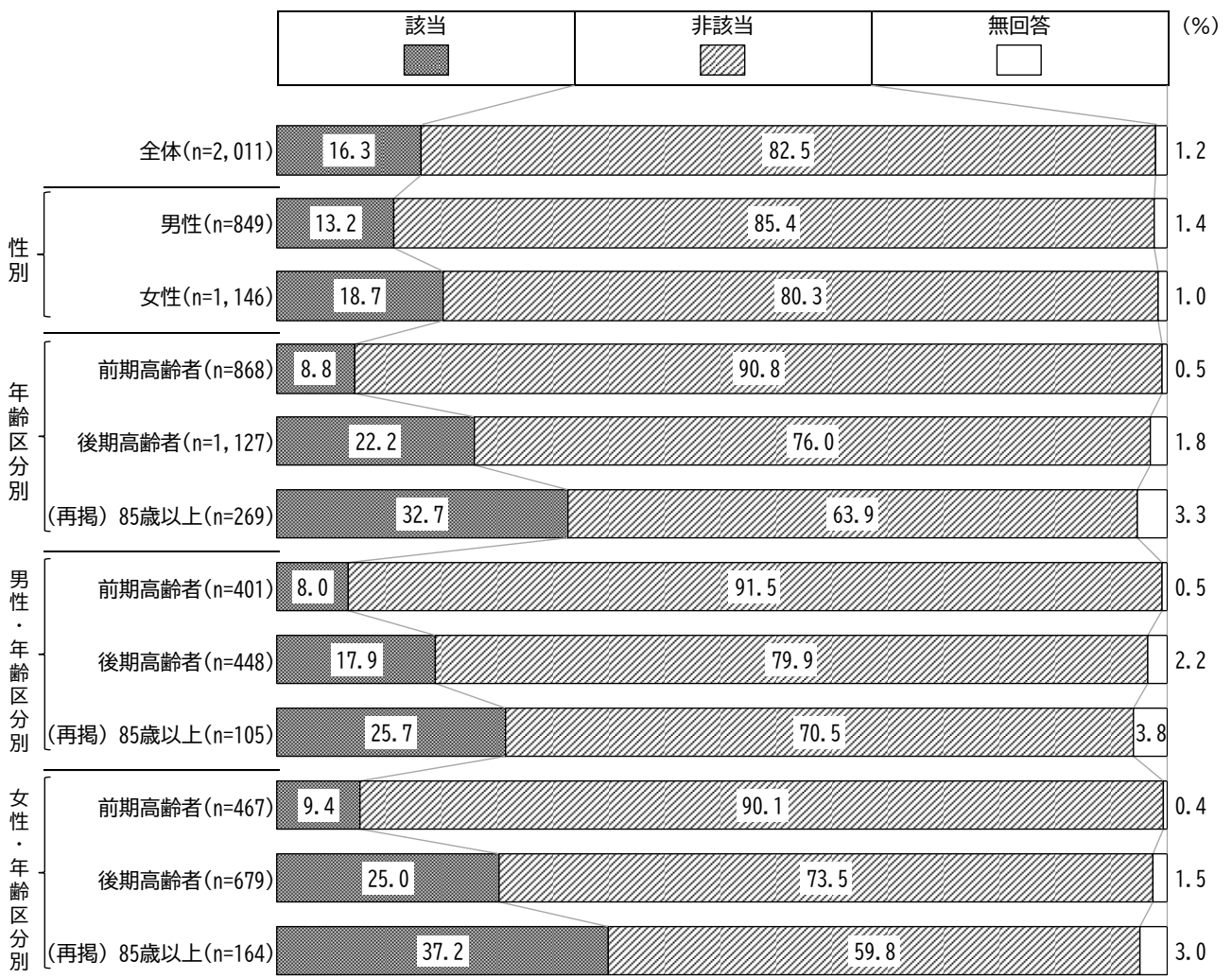
○運動機能の低下の判定結果については、「該当」が16.3%となっており、「非該当」は82.5%となっている。



○性別でみると、「該当」は、女性で18.7%と、男性(13.2%)より5.5ポイント高くなっている。

○年齢区分別でみると、「該当」は、85歳以上で32.7%となっている。

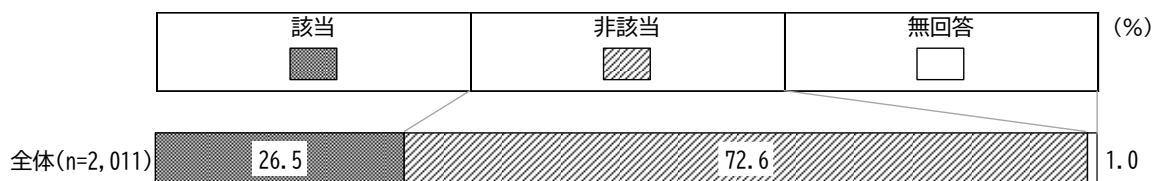
○性別・年齢区分別でみると、「該当」は、女性85歳以上で37.2%となっている。



(10) 口腔機能の低下

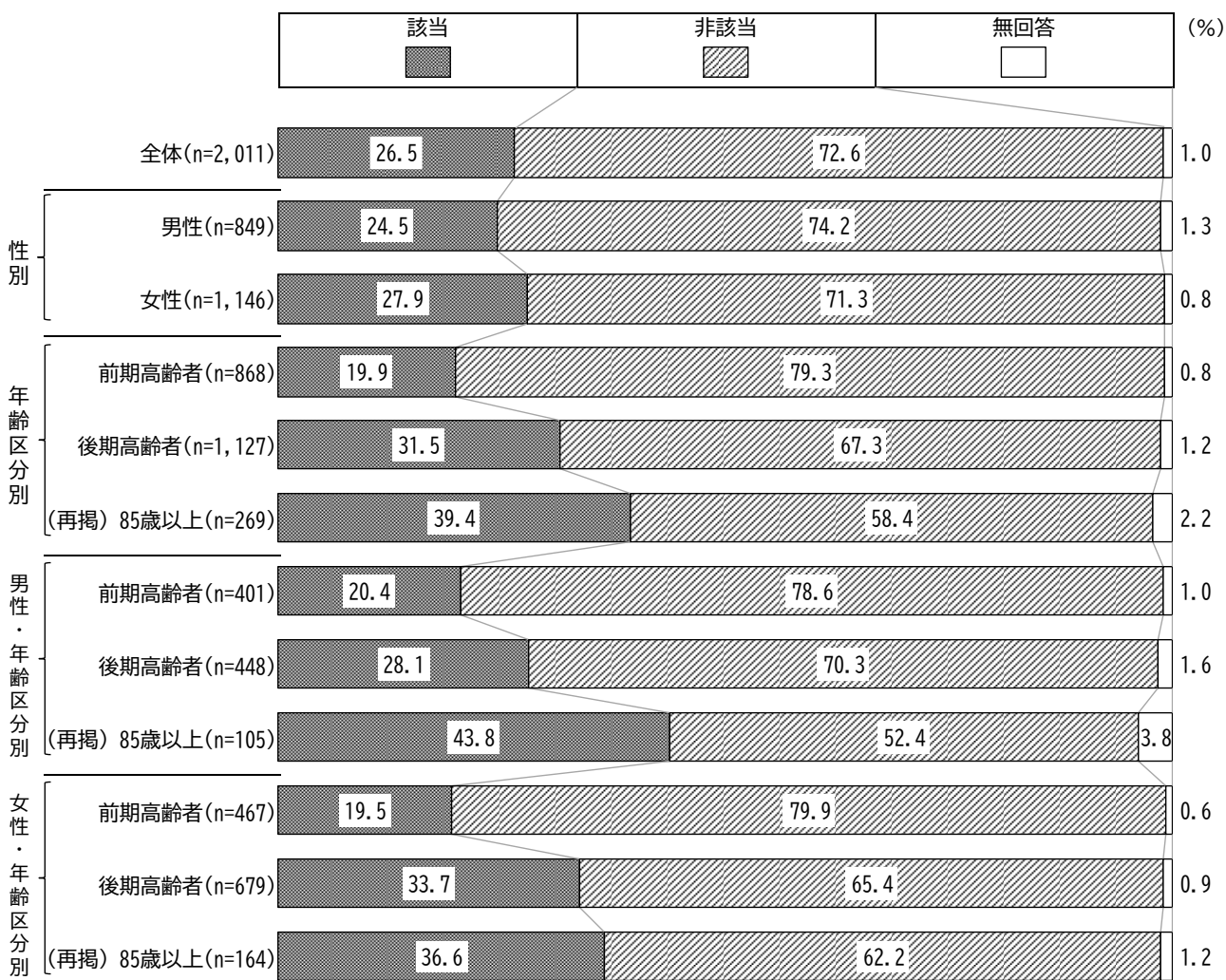
問 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。 (はい)
 問 お茶や汁物等でむせることがありますか。 (はい)
 問 口の渇きが気になりますか。 (はい)
 上記3項目中、2項目以上該当で「口腔機能の低下」に該当

○口腔機能の低下の判定結果については、「該当」が26.5%となっており、「非該当」は72.6%となっている。



○年齢区分別でみると、「該当」は、85歳以上で39.4%となっている。

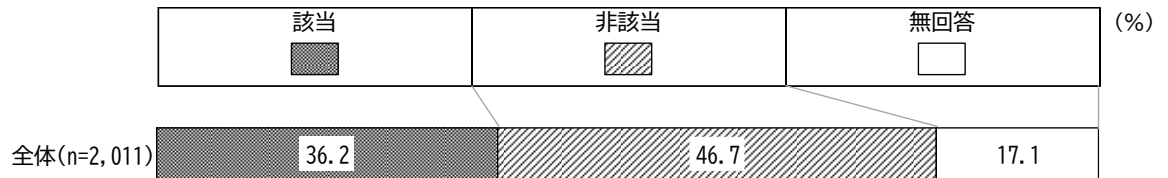
○性別・年齢区分別でみると、「該当」は、男性85歳以上で43.8%となっている。



(11) 介護予防必要者

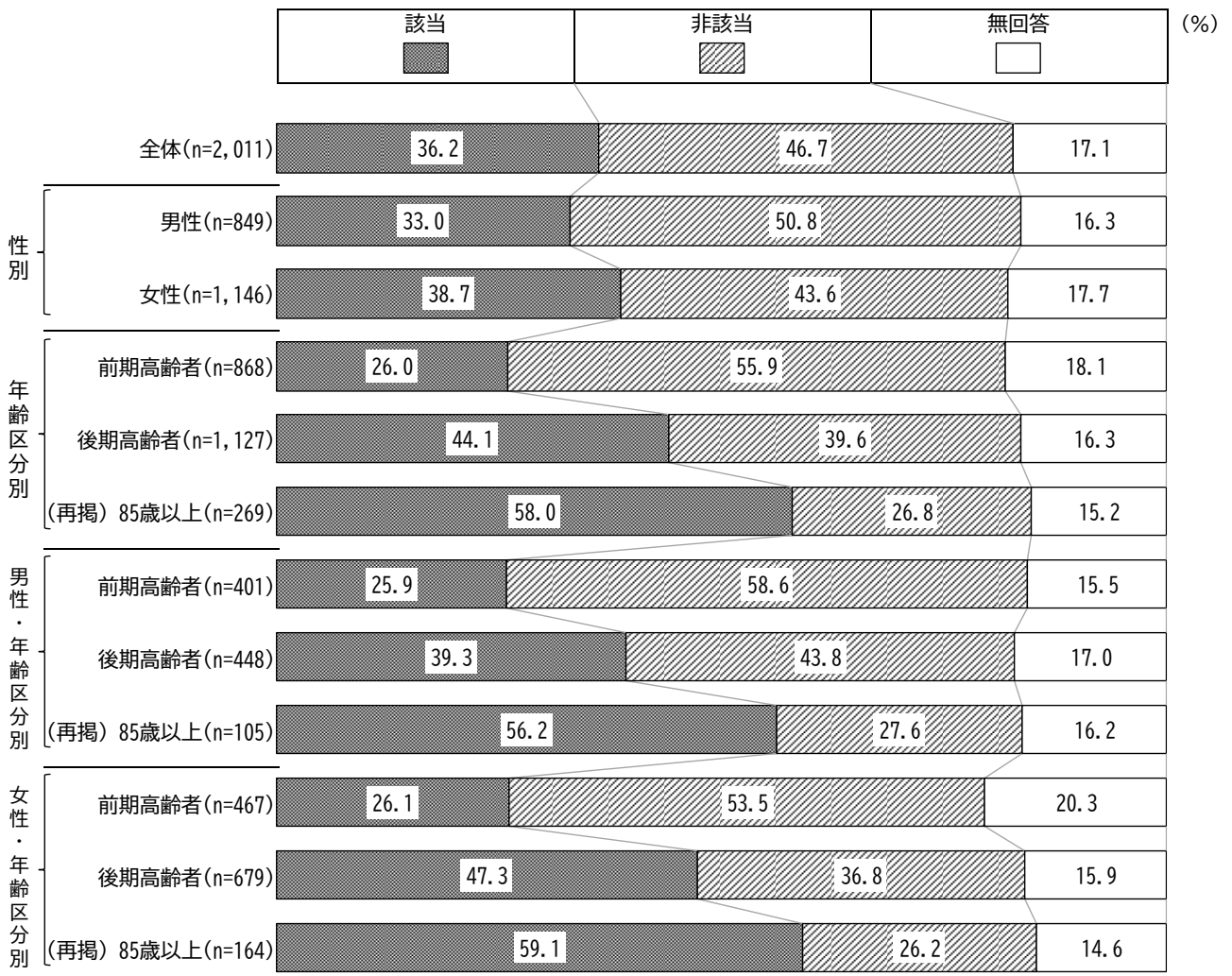
各種設問から基本チェックリストの考え方に基づいて算出した「生活機能の低下」「運動器の機能低下」「低栄養の傾向」「口腔機能の低下」の4つのいずれかに該当する場合は介護予防必要者と考えられる
 ※「生活機能の低下」「低栄養の傾向」は報告書の82ページ、84ページを参照

○介護予防必要者の判定結果については、「該当」が36.2%となっており、「非該当」は46.7%となっている。



○年齢区分別でみると、「該当」は、85歳以上で58.0%となっている。

○性別・年齢区分別でみると、「該当」は、女性85歳以上で59.1%となっている。

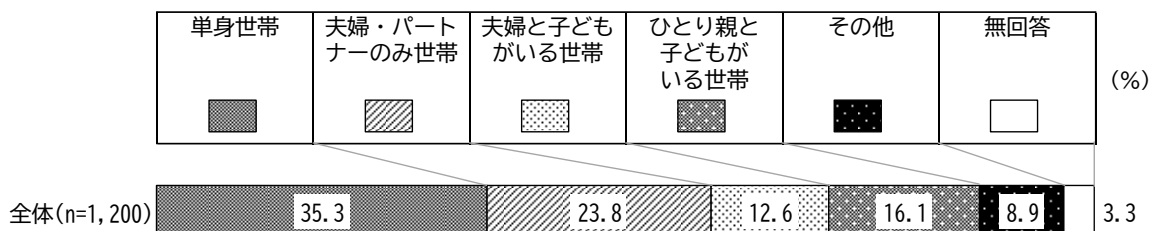


第2章 在宅介護実態調査

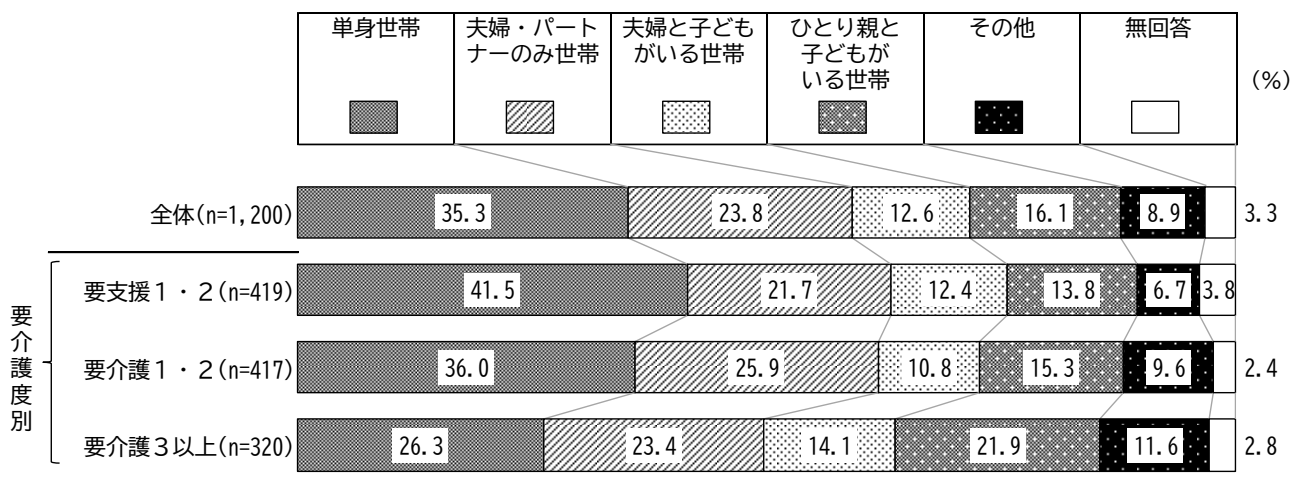
(1) 世帯類型

問 あて名ご本人の世帯類型について、ご回答ください。(☑は1つ)

○世帯類型については、「単身世帯」が35.3%、「夫婦・パートナーのみ世帯」が23.8%、「夫婦と子どもがいる世帯」が12.6%、「ひとり親と子どもがいる世帯」が16.1%となっている。



○要介護度別でみると、「単身世帯」は、要支援1・2で41.5%なのに対し、要介護1・2では36.0%、要介護3以上では26.3%となっている。

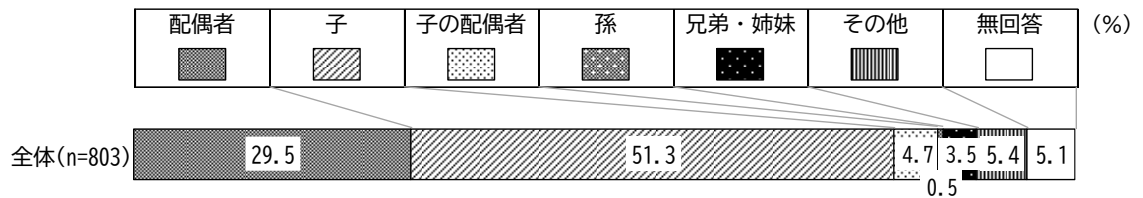


(2) 主な介護者の本人との関係

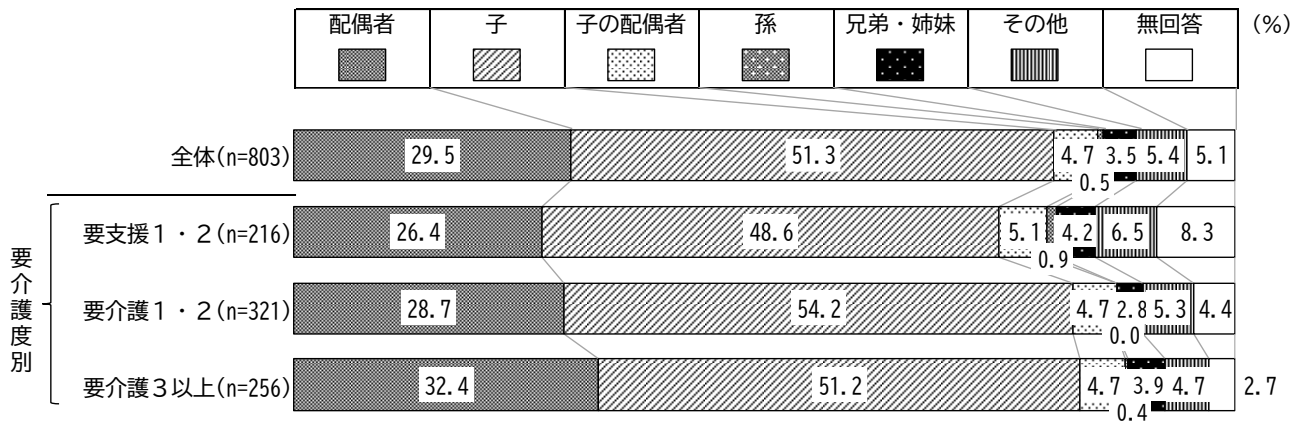
【問2で「ない」以外の方のみ】

問 主な介護者は、どなたですか。(☑は1つ)

○主な介護者については、「子」が 51.3%で最も高く、次いで「配偶者」が 29.5%、「子の配偶者」が 4.7%となっている。



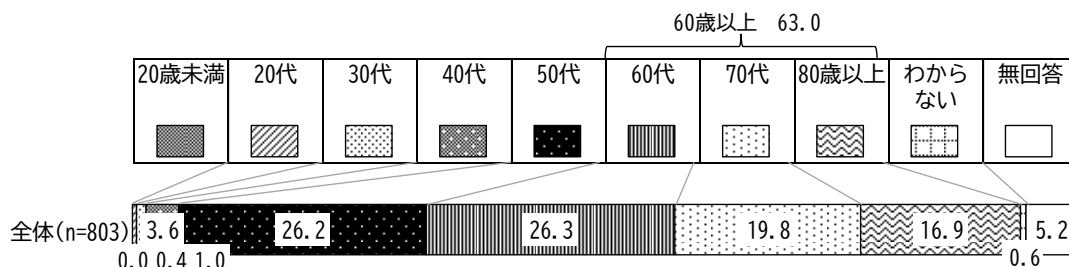
○要介護度別でみると、「子」は、要介護1・2で 54.2%と最も高く、「配偶者」は、要介護3以上で 32.4%と最も高くなっている。



(3) 主な介護者の年齢

問 主な介護者の年齢について、ご回答ください。(☑は1つ)

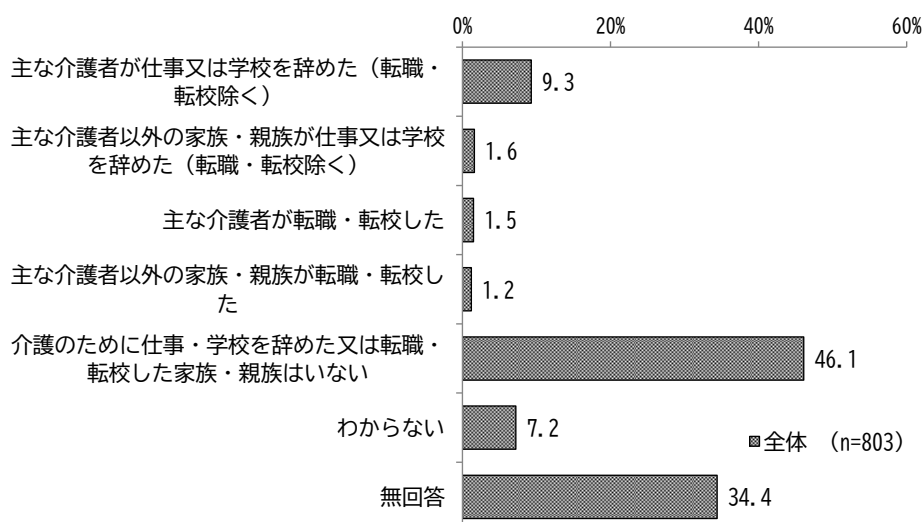
○主な介護者の年齢については、「60代」が26.3%で最も高く、次いで「50代」が26.2%、「80歳以上」が16.9%となっている。『60歳以上』を合わせると63.0%となっている。



(4) 介護のための離職・転職の有無

問 ご家族やご親族の中で、あて名ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた又は転職された人(学生の場合は、学校を辞めた又は転校された人)はいいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)。(あてはまるものすべてに☑)

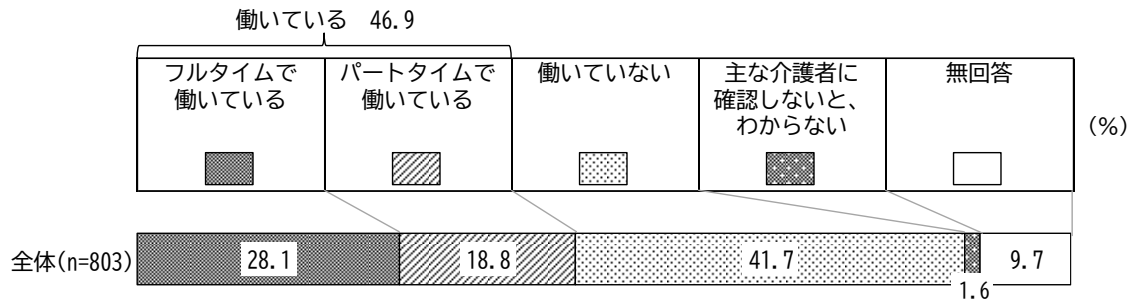
○家族や親族の中で過去1年の間に仕事を辞めた又は転職された人(学生の場合は、学校を辞めた又は転校された人)がいるかについては、「介護のために仕事・学校を辞めた又は転職・転校した家族・親族はいない」が46.1%で最も高くなっており、「主な介護者が仕事又は学校を辞めた(転職・転校除く)」が9.3%となっている。



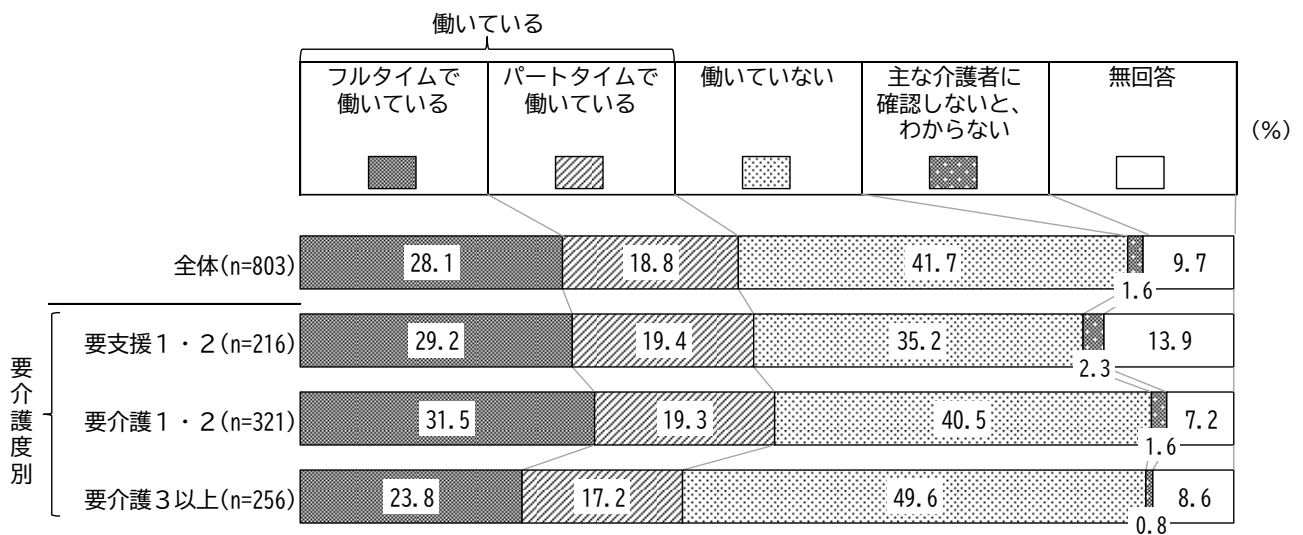
(5) 主な介護者の勤務形態

問 主な介護者の現在の勤務形態について、ご回答ください。(☑は1つ)

○主な介護者の勤務形態については、「働いていない」が41.7%で最も高くなっている。「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた『働いている』は、46.9%となっている。



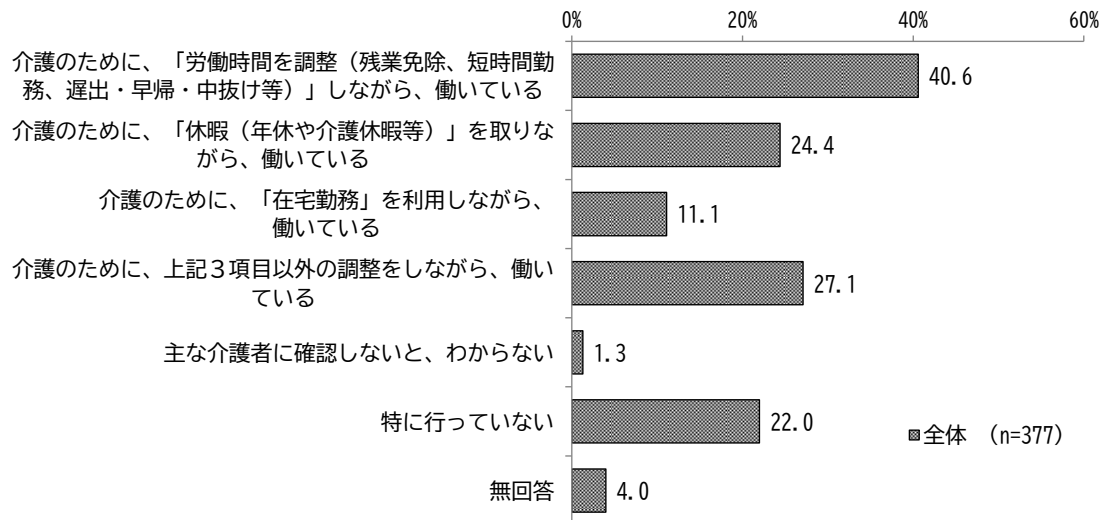
○要介護度別でみると、「働いていない」は、要支援1・2で35.2%なのに対し、要介護1・2では40.5%、要介護3以上では49.6%となっている。



(6) 主な介護者の働き方の調整

問 主な介護者は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。
(あてはまるものすべてに☑)

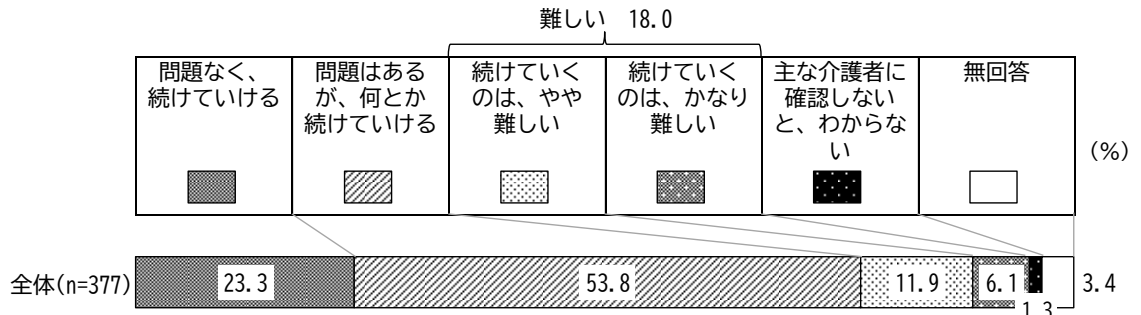
○主な介護者が介護をするにあたって行っている働き方の調整等については、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が40.6%で最も高くなっている。



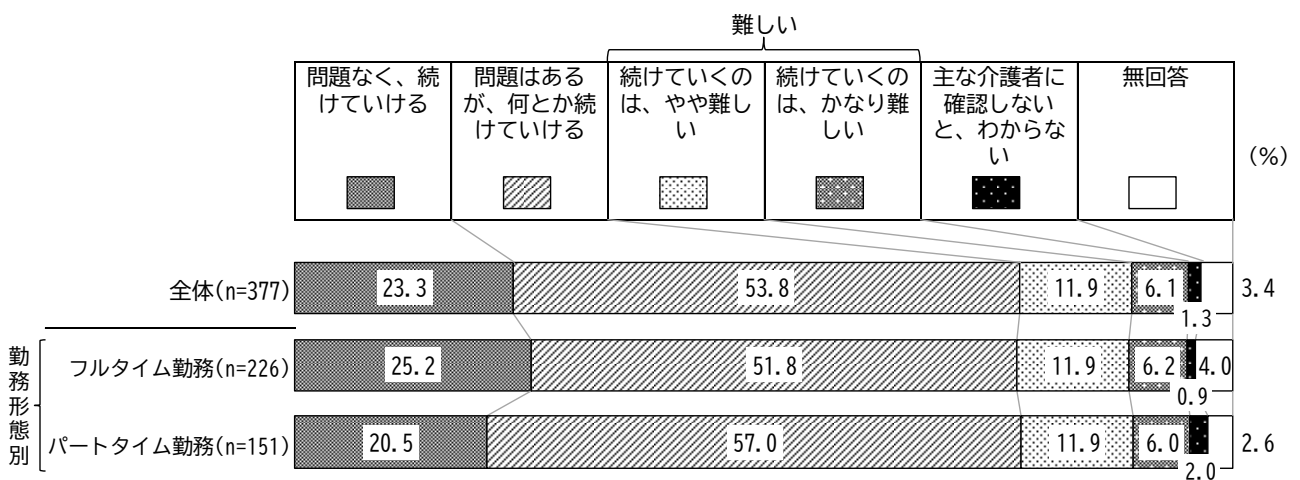
(7) 主な介護者の就労継続見込み

問 主な介護者は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(☑は1つ)

○主な介護者は、今後も働きながら介護を続けていけそうかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が53.8%で最も高くなっている。「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた『難しい』は、18.0%となっている。



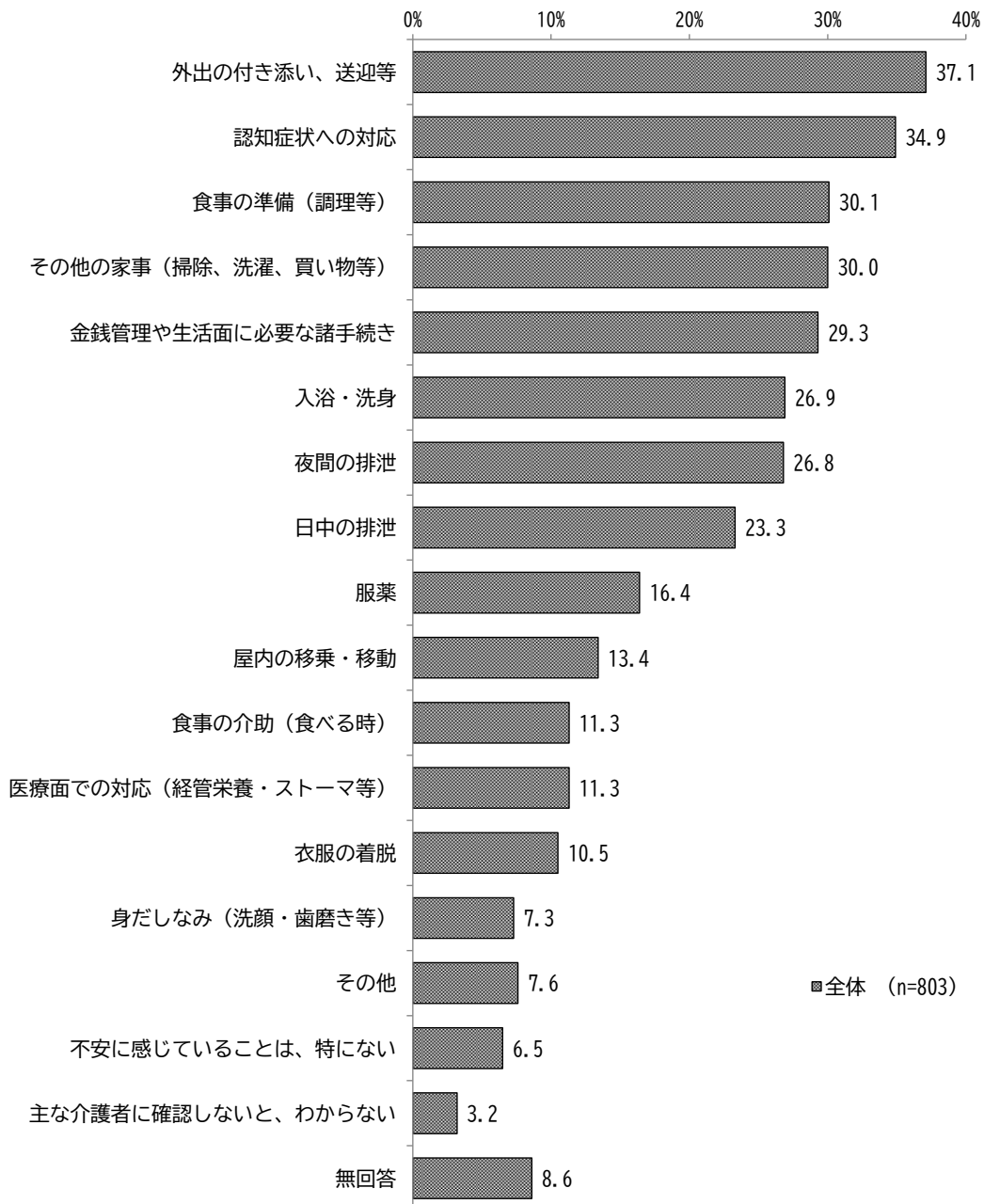
○主な介護者の勤務形態別で見ると、『難しい』は、フルタイム勤務、パートタイム勤務共に2割近くとなっている。



(8) 主な介護者が不安に感じる介護

問 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等について、ご回答ください
(現状で行っているか否かは問いません)。(☑は3つまで)

○現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等については、「外出の付き添い、送迎等」が37.1%で最も高く、次いで「認知症状への対応」が34.9%となっている。

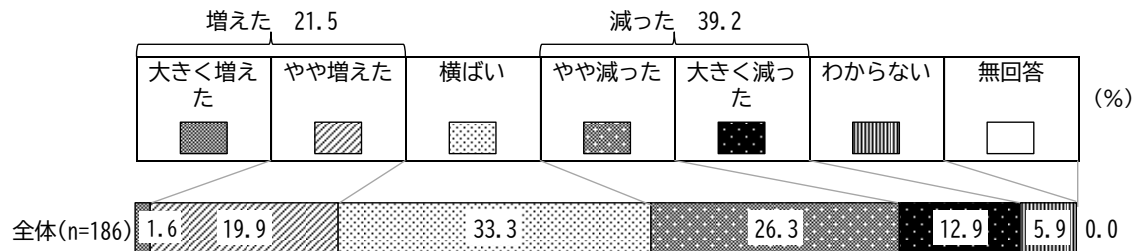


第3章 事業者向け調査

(1) 直近の決算年度収支

問 直近の決算年度の収支はいかがでしたか。(○は1つ)

○直近の決算年度の収支について、「大きく増えた」と「やや増えた」を合わせた『増えた』は、21.5%となっており、「やや減った」と「大きく減った」を合わせた『減った』は、39.2%となっている。



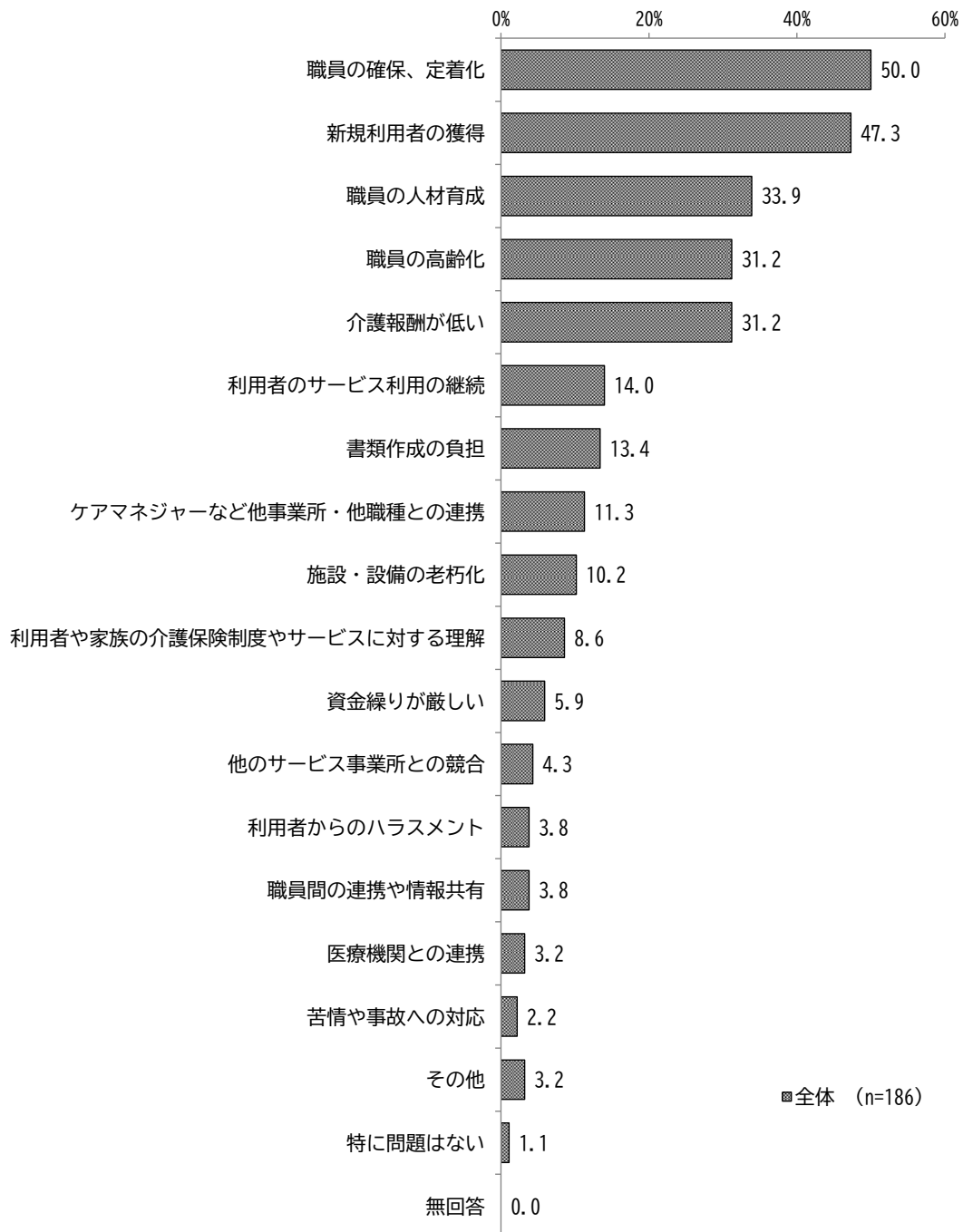
○サービス種別でみると、概ね「横ばい」が高い割合となっている。

(単位: %)		増えた			減った		わからない	無回答
		大きく増えた	やや増えた	横ばい	やや減った	大きく減った		
全体	(n=186)	1.6	19.9	33.3	26.3	12.9	5.9	0.0
居宅介護	(n=37)	0.0	16.2	43.2	27.0	5.4	8.1	0.0
訪問系	(n=58)	5.2	17.2	27.6	24.1	13.8	12.1	0.0
居住系	(n=14)	0.0	14.3	57.1	21.4	0.0	7.1	0.0
通所系	(n=46)	0.0	23.9	28.3	21.7	26.1	0.0	0.0
入所系	(n=9)	0.0	11.1	44.4	33.3	11.1	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	0.0	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=13)	0.0	46.2	7.7	38.5	7.7	0.0	0.0

(2) 事業を運営する上での課題

問 事業を運営する上での課題は何ですか。次から、主なものを選んでください。(〇は3つまで)

○事業を運営する上での課題については、「職員の確保、定着化」が50.0%で最も高く、次いで「新規利用者の獲得」が47.3%となっている。



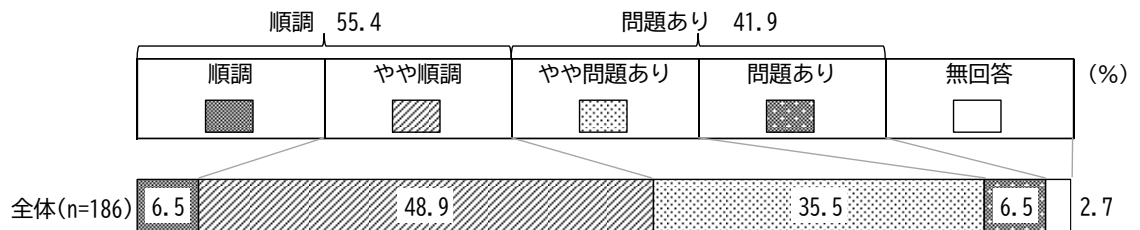
○サービス種別でみると、居宅介護では「職員の高齢化」(48.6%)、「介護報酬が低い」(40.5%)の割合が高く、訪問系では「職員の確保、定着化」(55.2%)、「新規利用者の獲得」(50.0%)の割合が高い。また、通所系では「新規利用者の獲得」(63.0%)、「職員の確保、定着化」(54.3%)の割合が高くなっている。

(単位：%)		職員の確保、定着化	新規利用者の獲得	職員の人材育成	職員の高齢化	介護報酬が低い	利用者のサービス利用の継続	書類作成の負担	ケアマネジャーなど他事業所・他職種との連携	施設・設備の老朽化	利用者や家族の介護保険制度やサービスに対する理解
全体	(n=186)	50.0	47.3	33.9	31.2	31.2	14.0	13.4	11.3	10.2	8.6
居宅介護	(n=37)	35.1	27.0	21.6	48.6	40.5	13.5	37.8	5.4	2.7	10.8
訪問系	(n=58)	55.2	50.0	27.6	29.3	43.1	5.2	3.4	15.5	1.7	10.3
居住系	(n=14)	57.1	57.1	71.4	50.0	21.4	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1
通所系	(n=46)	54.3	63.0	41.3	13.0	19.6	17.4	17.4	17.4	17.4	4.3
入所系	(n=9)	77.8	0.0	22.2	44.4	66.7	11.1	0.0	0.0	44.4	0.0
短期滞在系	(n=8)	37.5	25.0	12.5	50.0	0.0	37.5	0.0	12.5	25.0	12.5
福祉用具	(n=13)	38.5	69.2	46.2	15.4	0.0	38.5	7.7	7.7	0.0	15.4
(単位：%)		資金繰りが厳しい	他のサービス事業所との競合	利用者からのハラスメント	職員間の連携や情報共有	医療機関との連携	苦情や事故への対応	その他	特に問題はない	無回答	
全体	(n=186)	5.9	4.3	3.8	3.8	3.2	2.2	3.2	1.1	0.0	
居宅介護	(n=37)	5.4	0.0	8.1	2.7	10.8	2.7	13.5	0.0	0.0	
訪問系	(n=58)	12.1	10.3	6.9	1.7	3.4	1.7	0.0	0.0	0.0	
居住系	(n=14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
通所系	(n=46)	4.3	0.0	0.0	6.5	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	
入所系	(n=9)	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	
短期滞在系	(n=8)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	
福祉用具	(n=13)	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	

(3) 事業の経営状況

問 事業の経営状況についてお答えください。(○は1つ)

○事業の経営状況について、「順調」と「やや順調」を合わせた『順調』は、55.4%となっており、「やや問題あり」と「問題あり」を合わせた『問題あり』は、41.9%となっている。



○サービス種別でみると、「順調」と「やや順調」を合わせた『順調』は、居宅介護、訪問系、通所系でそれぞれ54.0%、60.3%、54.3%となっている。

(単位：%)		順調		問題あり		無回答
		順調	やや順調	やや問題あり	問題あり	
全体	(n=186)	6.5	48.9	35.5	6.5	2.7
居宅介護	(n=37)	5.4	48.6	37.8	5.4	2.7
訪問系	(n=58)	8.6	51.7	29.3	8.6	1.7
居住系	(n=14)	7.1	42.9	50.0	0.0	0.0
通所系	(n=46)	4.3	50.0	34.8	8.7	2.2
入所系	(n=9)	0.0	44.4	44.4	0.0	11.1
短期滞在系	(n=8)	12.5	25.0	37.5	12.5	12.5
福祉用具	(n=13)	7.7	53.8	38.5	0.0	0.0

(4) 職員の確保状況

問 職員の確保状況についてお答えください。(○は1つ)

○職員（介護支援専門員）の確保状況について、「大幅に不足」と「不足」を合わせた『不足』は、居宅介護で40.5%と高い割合となっている。

(単位：%)		不足		適正 (充足)	過剰	対象職員 配置なし	無回答
		大幅に不足	不足				
全体	(n=186)	1.6	14.5	32.3	0.0	32.8	18.8
居宅介護	(n=37)	5.4	35.1	56.8	0.0	2.7	0.0
訪問系	(n=58)	0.0	3.4	5.2	0.0	51.7	39.7
居住系	(n=14)	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0
通所系	(n=46)	2.2	10.9	28.3	0.0	45.7	13.0
入所系	(n=9)	0.0	22.2	77.8	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	0.0	0.0	62.5	0.0	37.5	0.0
福祉用具	(n=13)	0.0	7.7	0.0	0.0	46.2	46.2

○職員（介護職員）の確保状況について、「大幅に不足」と「不足」を合わせた『不足』は、事業所全体で46.2%となっている。

(単位：%)		不足		適正 (充足)	過剰	対象職員 配置なし	無回答
		大幅に不足	不足				
全体	(n=186)	10.2	36.0	18.8	0.0	21.0	14.0
居宅介護	(n=37)	5.4	2.7	0.0	0.0	51.4	40.5
訪問系	(n=58)	19.0	37.9	6.9	0.0	27.6	8.6
居住系	(n=14)	21.4	50.0	28.6	0.0	0.0	0.0
通所系	(n=46)	4.3	52.2	43.5	0.0	0.0	0.0
入所系	(n=9)	11.1	66.7	22.2	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=13)	0.0	7.7	15.4	0.0	30.8	46.2

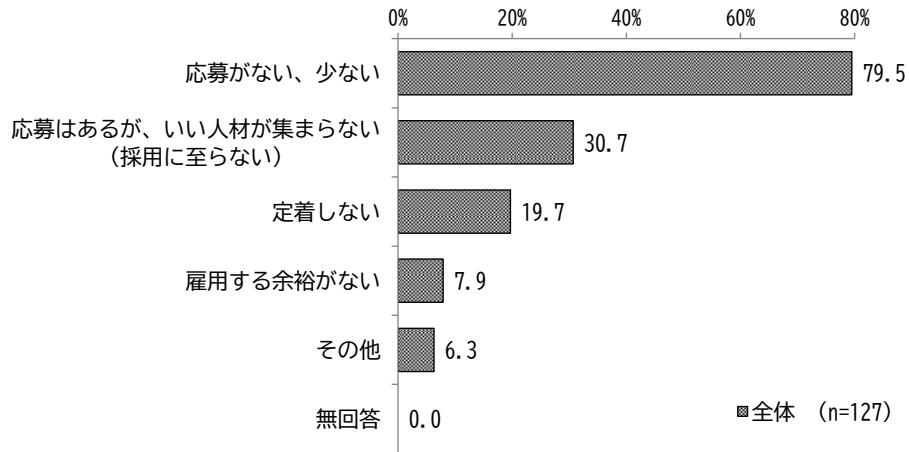
○職員（看護職員）の確保状況について、「大幅に不足」と「不足」を合わせた『不足』は、通所系で34.8%、入所系で55.6%、短期滞在系で50.0%となっている。

(単位：%)		不足		適正 (充足)	過剰	対象職員 配置なし	無回答
		大幅に不足	不足				
全体	(n=186)	2.7	18.3	24.7	0.0	28.0	26.3
居宅介護	(n=37)	0.0	0.0	0.0	0.0	54.1	45.9
訪問系	(n=58)	8.6	13.8	19.0	0.0	24.1	34.5
居住系	(n=14)	0.0	0.0	35.7	0.0	50.0	14.3
通所系	(n=46)	0.0	34.8	47.8	0.0	10.9	6.5
入所系	(n=9)	0.0	55.6	44.4	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	46.2	53.8

(5) 職員確保不足の原因

問 不足している状況の理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

○職員確保不足の原因については、「応募がない、少ない」が79.5%で最も高く、次いで「応募はあるが、いい人材が集まらない(採用に至らない)」が30.7%となっている。



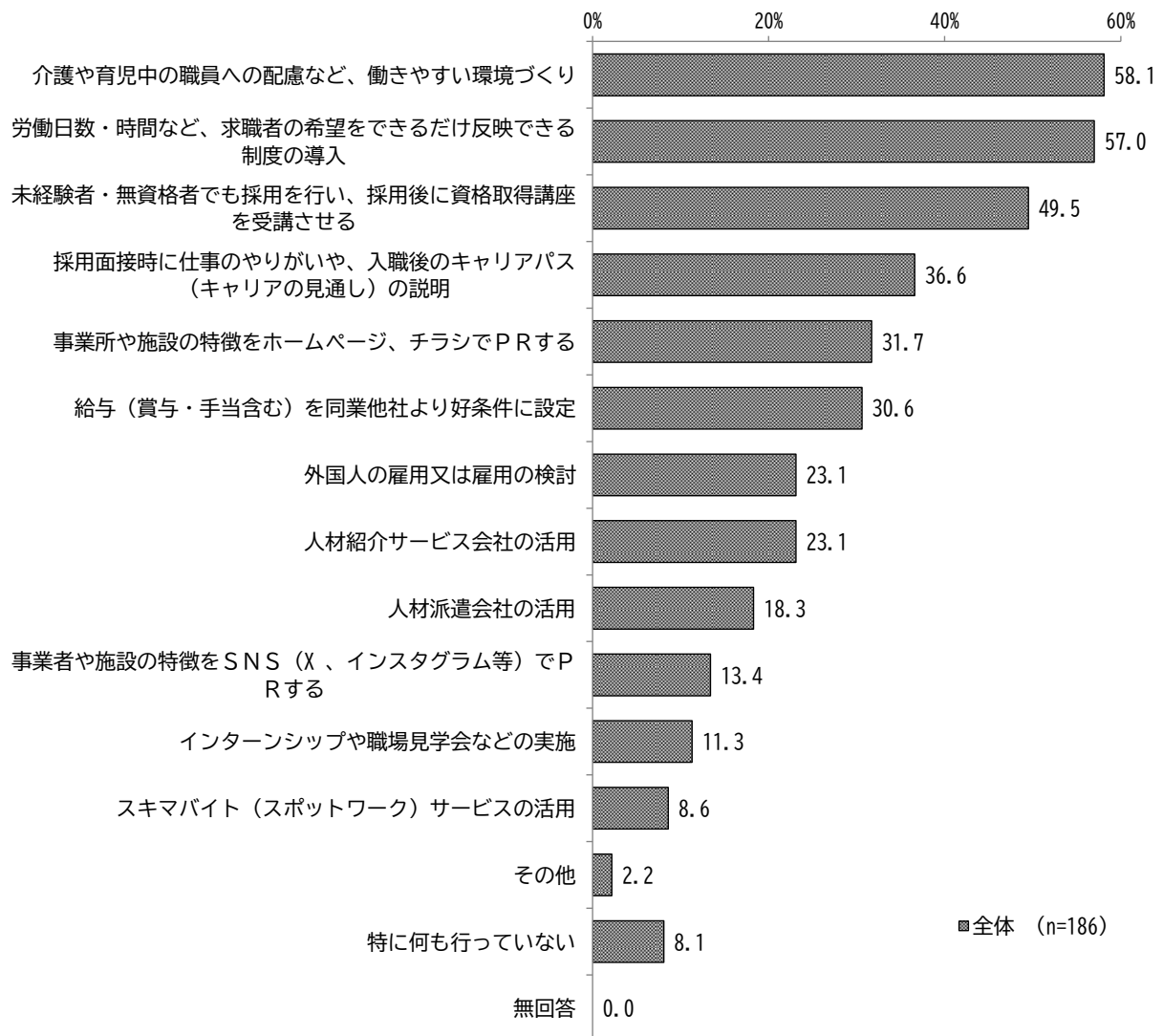
○サービス種別でみると、すべての事業所で「応募がない、少ない」が最も高くなっている。

(単位：%)		応募がない、少ない	応募はあるが、いい人材が集まらない(採用に至らない)	定着しない	雇用する余裕がない	その他	無回答
全体	(n=127)	79.5	30.7	19.7	7.9	6.3	0.0
居宅介護	(n=17)	88.2	23.5	17.6	5.9	11.8	0.0
訪問系	(n=46)	73.9	28.3	13.0	13.0	4.3	0.0
居住系	(n=11)	90.9	36.4	27.3	0.0	18.2	0.0
通所系	(n=30)	76.7	43.3	26.7	6.7	3.3	0.0
入所系	(n=9)	88.9	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=7)	100.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=6)	66.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0

(6) 人材確保のための取り組み

問 貴事業所で行っている新規人材の確保のための取り組みについてお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

○新規人材の確保のために行っている取り組みについては、「介護や育児中の職員への配慮など、働きやすい環境づくり」が58.1%で最も高く、次いで「労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入」が57.0%となっている。



○サービス種別でみると、居宅介護では「介護や育児中の職員への配慮など、働きやすい環境づくり」と「労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入」が共に 43.2%で最も高く、訪問系では「労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入」が72.4%で、通所系では「未経験者・無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させる」が73.9%で最も高くなっている。

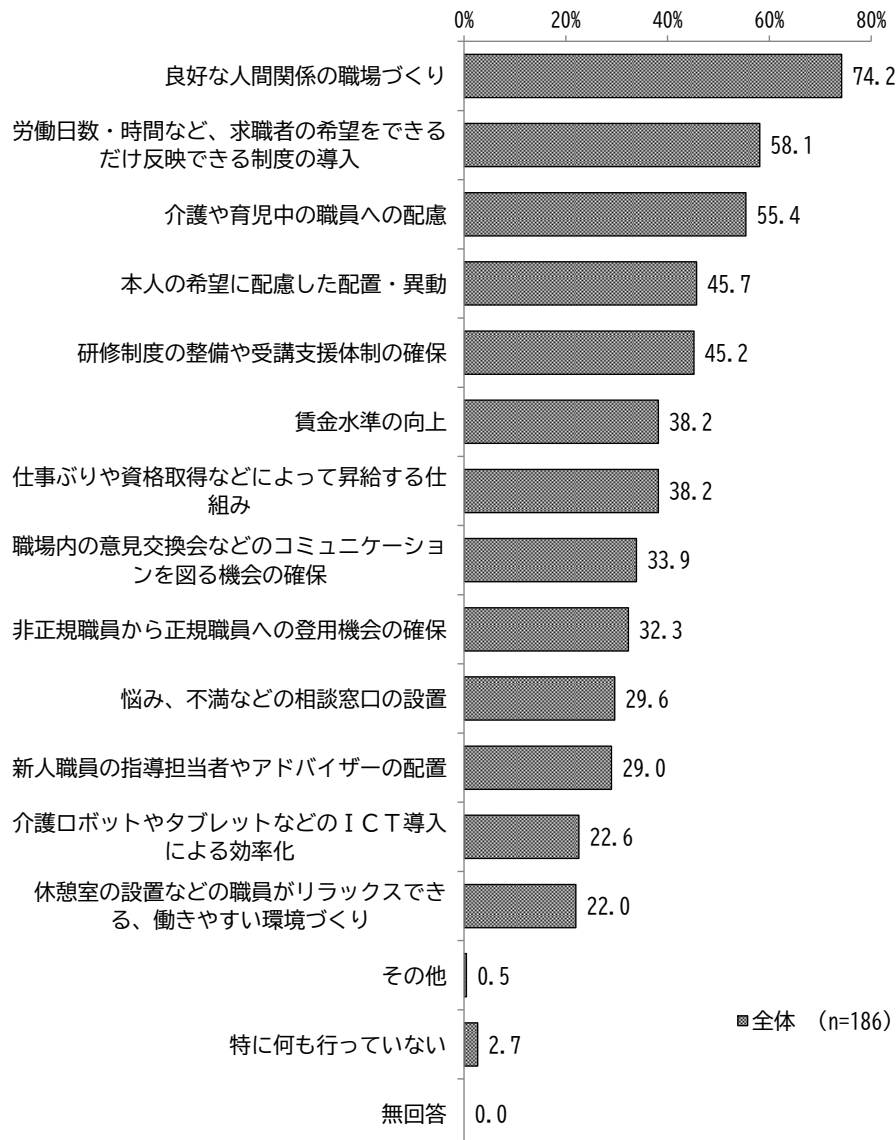
(単位：%)		介護や育児中の職員への配慮など、働きやすい環境づくり	労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入	未経験者・無資格者でも採用を行い、採用後に資格取得講座を受講させる	採用面接時に仕事のやりがいや、入職後のキャリアパス（キャリアの見通し）の説明	事業所や施設の特徴をホームページ、チラシでPRする	給与（賞与・手当含む）を同業他社より好条件に設定	外国人の雇用又は雇用の検討	人材紹介サービス会社の活用	人材派遣会社の活用
全体	(n=186)	58.1	57.0	49.5	36.6	31.7	30.6	23.1	23.1	18.3
居宅介護	(n=37)	43.2	43.2	21.6	27.0	18.9	29.7	2.7	5.4	2.7
訪問系	(n=58)	60.3	72.4	32.8	27.6	29.3	36.2	6.9	25.9	10.3
居住系	(n=14)	64.3	35.7	64.3	71.4	21.4	21.4	50.0	21.4	28.6
通所系	(n=46)	65.2	58.7	73.9	45.7	37.0	28.3	41.3	32.6	37.0
入所系	(n=9)	66.7	33.3	77.8	33.3	77.8	22.2	77.8	44.4	44.4
短期滞在系	(n=8)	62.5	37.5	75.0	37.5	50.0	25.0	50.0	37.5	25.0
福祉用具	(n=13)	46.2	69.2	61.5	30.8	23.1	38.5	0.0	7.7	0.0

(単位：%)		事業者や施設の特徴をSNS(X、Instagram等)でPRする	インターンシップや職場見学会などの実施	スキマバイト（スポットワーク）サービスの活用	その他	特に何も行ってない	無回答
全体	(n=186)	13.4	11.3	8.6	2.2	8.1	0.0
居宅介護	(n=37)	8.1	8.1	0.0	5.4	29.7	0.0
訪問系	(n=58)	13.8	5.2	3.4	1.7	5.2	0.0
居住系	(n=14)	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
通所系	(n=46)	8.7	13.0	21.7	2.2	2.2	0.0
入所系	(n=9)	55.6	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	37.5	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(7) 早期離職の防止や定着促進のための取り組み

問 貴事業所で行っている職員の早期離職の防止や定着促進のための取り組みについてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

○早期離職の防止や定着促進のための取り組みについては、「良好な人間関係の職場づくり」が74.2%で最も高く、次いで「労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入」が58.1%となっている。



○サービス種別でみると、入所系を除くすべての事業所において、「良好な人間関係の職場づくり」が最も高くなっている。

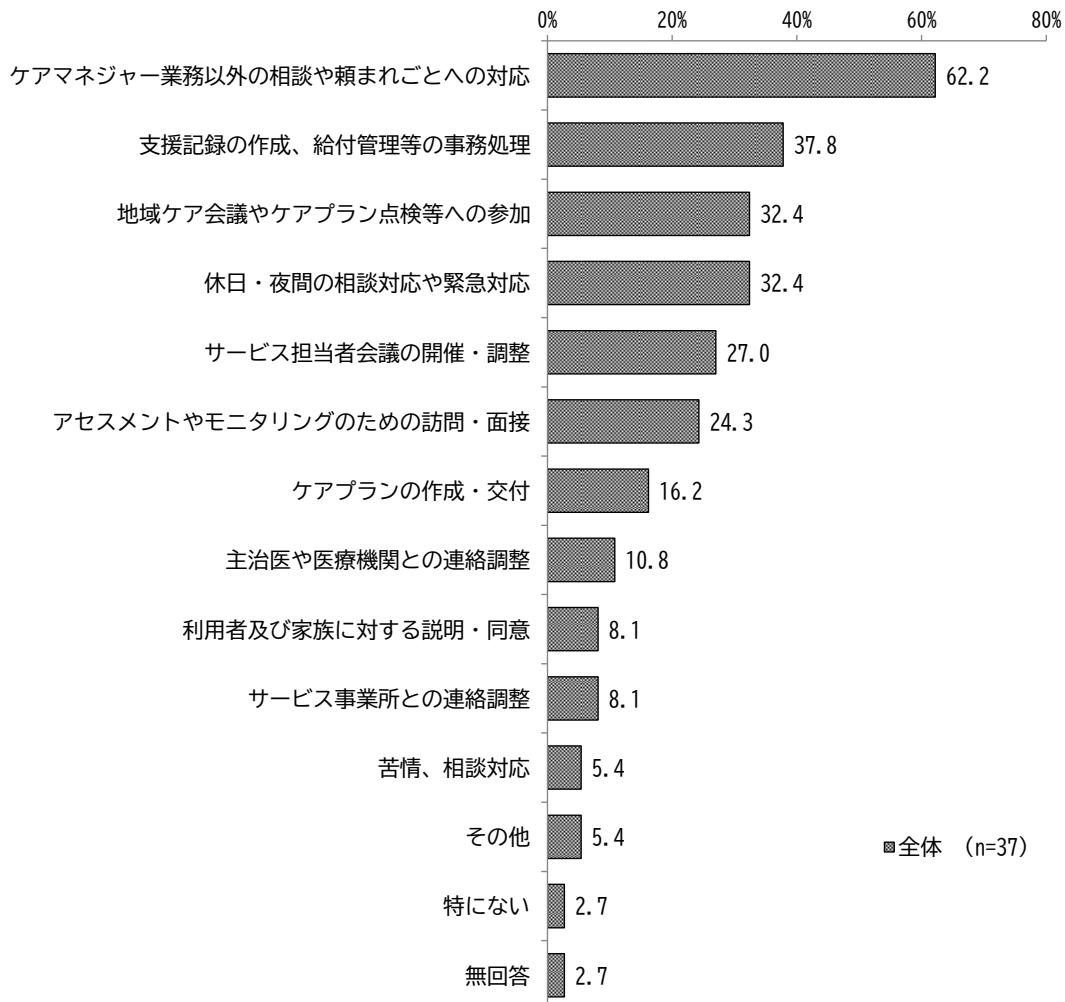
(単位：%)		良好な人間関係の職場づくり	労働日数・時間など、求職者の希望をできるだけ反映できる制度の導入	介護や育児中の職員への配慮	本人の希望に配慮した配置・異動	研修制度の整備や受講支援体制の確保	賃金水準の向上	仕事ぶりや資格取得などによって昇給する仕組み	職場内の意見交換会などのコミュニケーションを図る機会の確保	非正規職員から正規職員への登用機会の確保
全体	(n=186)	74.2	58.1	55.4	45.7	45.2	38.2	38.2	33.9	32.3
居宅介護	(n=37)	67.6	48.6	43.2	37.8	43.2	29.7	29.7	27.0	13.5
訪問系	(n=58)	79.3	63.8	60.3	51.7	41.4	41.4	34.5	44.8	34.5
居住系	(n=14)	85.7	50.0	64.3	50.0	64.3	28.6	42.9	21.4	50.0
通所系	(n=46)	71.7	65.2	58.7	45.7	39.1	43.5	41.3	32.6	39.1
入所系	(n=9)	66.7	44.4	88.9	44.4	77.8	44.4	66.7	11.1	44.4
短期滞在系	(n=8)	75.0	25.0	62.5	37.5	75.0	25.0	62.5	12.5	62.5
福祉用具	(n=13)	69.2	69.2	15.4	38.5	23.1	38.5	23.1	46.2	0.0

(単位：%)		悩み、不満などの相談窓口の設置	新人職員の指導担当者やアドバイザーの配置	介護ロボットやタブレットなどのICT導入による効率化	休憩室の設置などの職員がリラックスできる、働きやすい環境づくり	その他	特に何も行ってない	無回答
全体	(n=186)	29.6	29.0	22.6	22.0	0.5	2.7	0.0
居宅介護	(n=37)	27.0	21.6	18.9	13.5	2.7	8.1	0.0
訪問系	(n=58)	29.3	20.7	13.8	25.9	0.0	1.7	0.0
居住系	(n=14)	42.9	50.0	42.9	21.4	0.0	0.0	0.0
通所系	(n=46)	32.6	26.1	19.6	21.7	0.0	0.0	0.0
入所系	(n=9)	33.3	66.7	44.4	22.2	0.0	0.0	0.0
短期滞在系	(n=8)	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0
福祉用具	(n=13)	7.7	15.4	23.1	23.1	0.0	7.7	0.0

(8) ケアマネジャー業務の負担

問 ケアマネジャー業務において、特に負担が大きいと感じることは何ですか。
(あてはまるもの3つまで○)

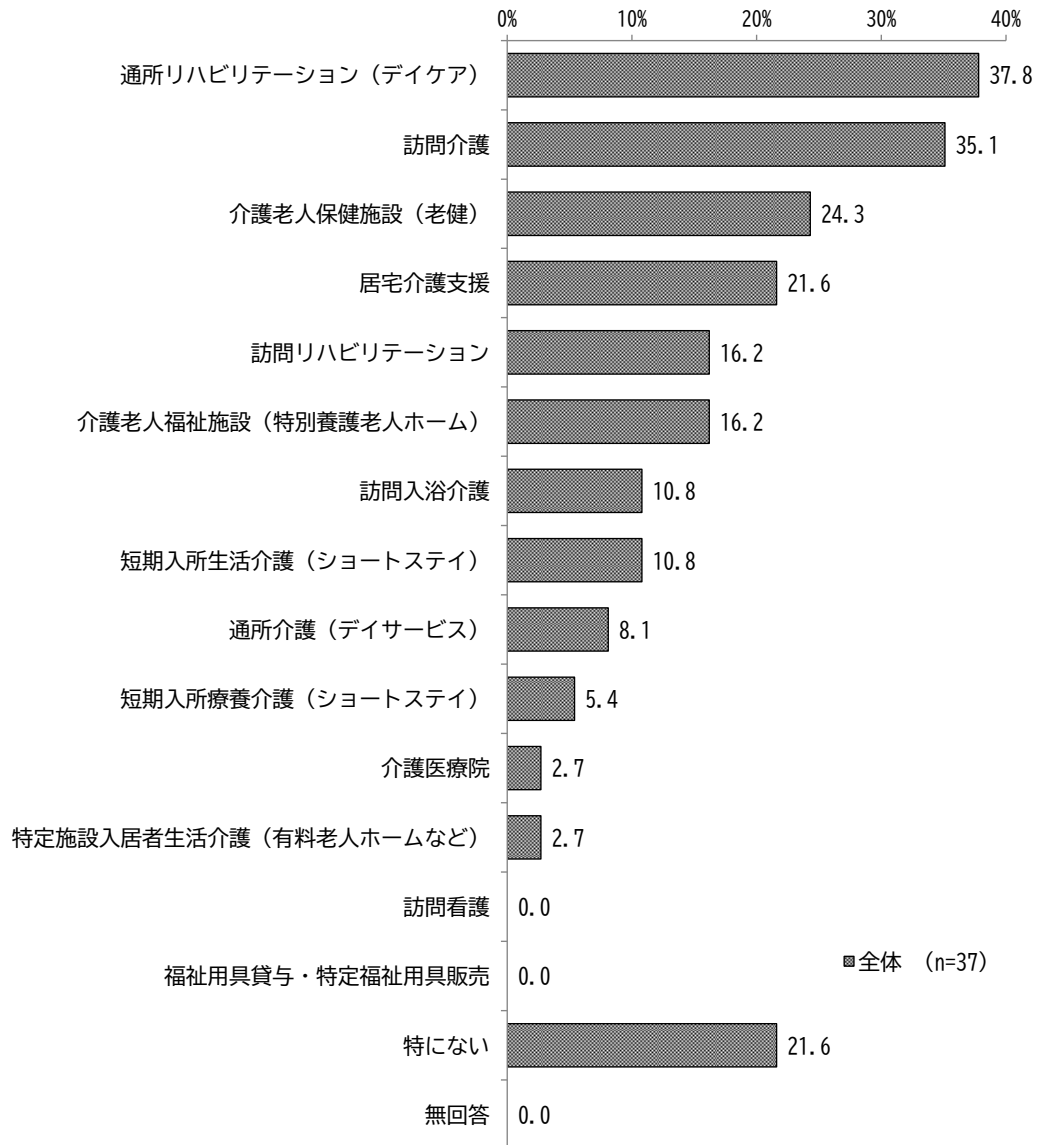
○ケアマネジャー業務の負担については、「ケアマネジャー業務以外の相談や頼まれごとへの対応」が62.2%で最も高く、次いで「支援記録の作成、給付管理等の事務処理」が37.8%となっている。



(9) 荒川区に不足している介護サービス

問 現在の荒川区において、特に「不足している」と感じる介護サービス（「地域密着型サービス」以外）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

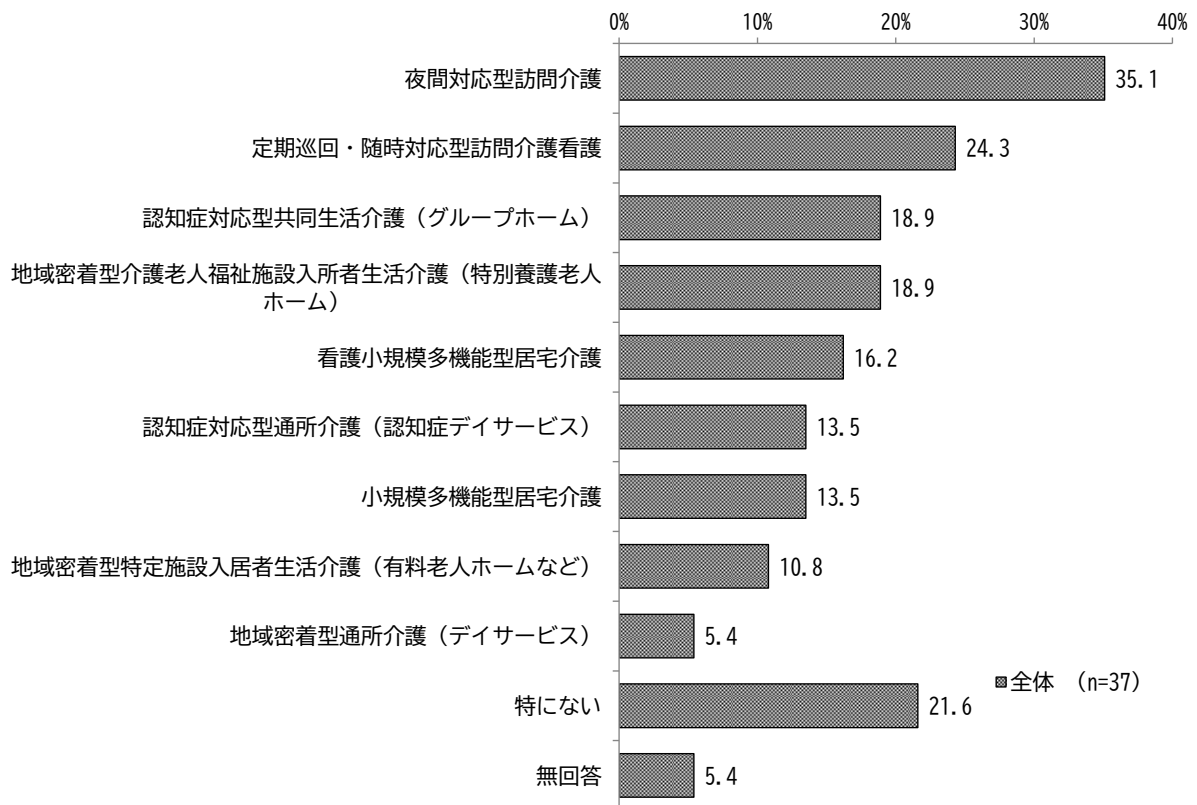
○荒川区に不足していると感じる介護サービスについては、「通所リハビリテーション（デイケア）」が37.8%で最も高く、次いで「訪問介護」が35.1%となっている。



(10) 荒川区に不足している地域密着型サービス

問 現在の荒川区において、特に「不足している」と感じる「地域密着型サービス」は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

○荒川区に不足していると感じる地域密着型サービスについては、「夜間対応型訪問介護」が35.1%で最も高く、次いで「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」が24.3%となっている。



第10期荒川区高齢者プラン策定のための
アンケート調査報告書（ダイジェスト版）

令和8年3月

【発行】荒川区 福祉部 介護保険課

〒116-8501 東京都荒川区2-2-3

TEL 03-3802-3111（代表）
